

### 多自然川づくり取り組み事例

タイトル：実践的多自然川づくりを継承する仕組み作り		
水系/河川名：-	河川分類：その他	
河川の流域面積：-km <sup>2</sup>	整備計画流量：-m <sup>3</sup> /s(W=1/)	セグメント：不明
事業：環境整備	事業開始年度 平成29年度	
目標設定：なし	段階：P(計画時)	
課題・目的(主な)：その他		
工法(主な)：管理ルールの設定		
配慮事項(主な)：河川景観への配慮、施工管理、人材育成		

#### 背景・課題、目標設定

##### <背景>

中部地方整備局では多自然川づくりポイントブックⅢ, 美しい山河を守る災害普及基本方針などをもとに, 多自然川づくりに取り組んできたが, 多自然川づくりの実施による影響や効果などを把握するまでに至っていない。

現場での, 調査から施工, 維持管理の一連の取り組み過程の中で, 目標や考え方等を各段階で適切に継承し, 多自然川づくりの徹底を図る。

##### <目標>

多自然川づくりの一連の取り組み過程の徹底し, 全ての河川工事で多自然川づくりを実現するために, これまでの取り組み状況から課題を抽出し, 課題解決の対策として多自然川づくりが実施されるような仕組みを検討する。

#### 取り組み内容・対策例

時期	工務課が確認する事項	実施した記録 または 実施しない理由
実施過程段階	川づくりの目標が共有されているかを確認するとともに, 環境配慮事項を踏まえた詳細設計が適切に検討され, その妥当性を確認できる実施過程となっているかを確認すること。	
	① <input type="checkbox"/> 河川環境情報図を用いて配慮すべき対象を確認したか。	
	⑤ <input checked="" type="checkbox"/> 合同現地踏査または設計審査会を開催したときは, 環境担当課に出席してもらい, 「多自然カルテ」を用いた川づくりの目標と環境配慮事項について説明してもらったか。	(記入欄) 〇年〇月〇日の設計審査会に環境部長が参加。

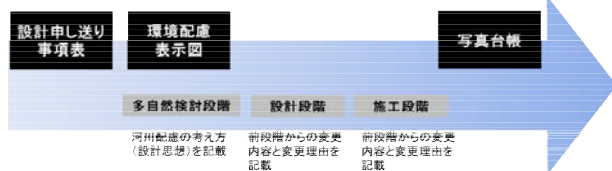
30年 11月 27日

#### 「多自然チェックリスト」

多自然川づくりの仕組みとして, 3つの柱を提案

- ・多自然検討段階の追加
- ・多自然チェックリストの作成
- ・多自然カルテの作成

#### 「多自然カルテ」の構成



#### モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

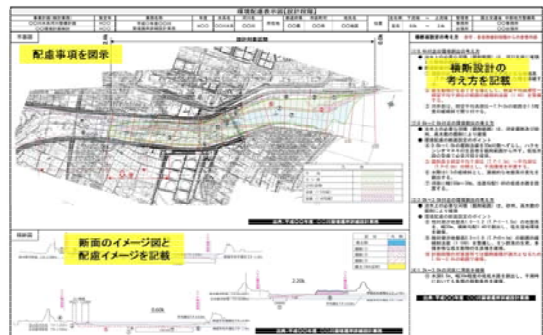
##### <期待できる効果>

- ・各河川の目標とする川の姿が明確になる。

##### <今後の対応>

- ・各河川の性格に合った多自然川づくりが出来るよう, 維持管理結果が事業計画へフィードバックできるような仕組み作りとする。
- ・来年度から中部地方整備局の河川全般に活用され, 各河川にて実践されることを目指す。

#### 環境配慮表示図(設計段階)



#### 備考